



8/16 土居夏まつり



8/14 湖水まつり



8/5 山あいの静けさの中、きらびやかな花火が目前で開き、観客はゆったりと流れる非日常を楽しみました。



7/29 紙のまち四国中央市ならではの「紙おどり」に総おどりが復活。まちに、にぎわいが戻りました。



7/25 色とりどりの美しい花火が、6000発打ち上がり、三島港の夜空と水面を彩りました。



7/24 各連の競演に多くの人が集まり、通りは熱気に包まれました。会場の活気と笑顔が、夏を彩りました。



7/15 3000発の仕掛け花火や打ち上げ花火に大きな歓声があがり、見物客は夏の風情を満喫しました。



経済の中心地で連携 首都圏交流会を開催

8月9日、東京都で、日本経済の中心地で活躍する本市ゆかりの企業が集い、企業間の連携や情報共有を図る四国中央市首都圏交流会が開催されました。

交流会では、本市出身で週刊少年ジャンプ編集長の大西恒平さんが「週刊少年ジャンプのモノづくり」と題し講演。週刊誌の市場、出版社の業務形態の変化、メディアミックス業務、漫画家とのやりとりなど、自身の体験を交えた貴重な話の数々に、参加者は興味深く耳を傾けていました。



地域福祉への貢献に 厚生労働大臣特別表彰

8月3日、長年にわたり地域福祉に尽力し、退任された民生委員・児童委員に対し、その功績をたたえて表彰状が贈られました。

特に長く在職し、功績も大きいと認められる委員には、厚生労働大臣特別表彰が手渡されました。

篠原市長は「長年の多大なご貢献に深く感謝する。この表彰を誇りにしてほしい」と受賞者に労いの言葉を贈るとともに、引き続き地域を支える存在として、市民福祉の増進に協力してほしいと呼びかけました。

戦後78年 平和を願う 終戦記念日各地で祈り



終戦から78年を迎えた、8月15日、松山市の県民文化会館で県戦没者追悼式がありました。およそ800人が参列し、黙とうや献花で戦没者を悼みました。

また16日には、三島公園(中曽根町)内の慰霊塔が開帳されました。訪れた人は、戦争の犠牲となった方々のご冥福を祈るとともに、恒久平和の実現を願いました。



霧の高原に新たな魅力 グランピング誕生

8月1日、霧の高原(新宮町上山)でグランピング施設ルオンテのオープニングセレモニーがありました。キャッチフレーズは「新宮らしき溢れる観光へ」。キャンプとホテルの魅力を掛け合わせた次世代型アウトドア施設として、ドーム型テントや露天風呂、サウナなどを整備。四季折々の美しい塩塚高原の景色と、満天の星空が楽しめます。

テープカットが行われると、参加者から盛大な拍手が贈られ、新宮の自然を堪能できる新たな観光地の誕生に期待が寄せられました。



川之江信用金庫で大会PR

ねりんピックまで100日
開催まで100日となった7月20日、事務局が川之江信用金庫南支店（金生町下分）の協力を得て、大会をPRしました。

8月12日、本市出身で絵本作家・翻訳家・詩人の石津ちひろさんによるトークイベントが、しこちゅうホール（妻鳥町）でありました。テーマは「表現活動を通じて、子どもの言葉の力をどう育てていくか」。絵本の読み聞かせについて、石津さんは「自分が楽しいと思う本を選んで、そのワクワクを伝えてください。きつと本を好きになっくれるはずですよ」と話しました。

子どもの育ちと未来を語り合うトークイベントを開催



8月4日、ロボット製作やプログラミングの技術を競う「SMART 2023 四国大会」が、伊予三島運動公園体育館（中庄町）で開催されました。大会は、徳島大学理工学部が地域の活性化と人材育成を目的に毎年開催。ロボットの製作過程で育まれる、問題解決力や論理的思考力、コミュニケーション能力に注目し、本市では令和3年度から市内の全中学校が参加しています。

今大会には、四国各地から中学生らによる22チームが参加。専用のキットから作った自律移動型ロボットで、3分間の制限時間内にフィールドに配置された6個のペットボトルキャップの上にピンポン玉を置いたり、減点ペナルティを避けながら、加減ペナルティを倒すなどの複雑な課題に、果敢に挑みました。参加者は自作ロボットの挙動に一喜一憂。U-15部門で、土居中学校が見事優勝に輝きました。

開催地の本市に中高生らが集うロボット競技の四国大会開催



地域の安心安全に防犯カメラ寄贈トラック協会に感謝状



県トラック協会四国中央地区トラック協会（西岡齊地区会長・写真左から3番目）から四国中央地区防犯協会に、防犯カメラ2台を含む設備一式が寄贈され、8月2日に感謝状の贈呈式が行われました。西岡会長は「地域の安全に役立ててほしい」と、日々の暮らしの安全を願いました。

「日本一の紙のまち」PRを応援(株)大王海運が三島高校書道部へ寄附



創立100周年を迎える三島高校で7月21日、大王海運株式会社（東京・四国中央市）から同校書道部へ100万円が寄附されました。贈呈式で同社の岩井正実代表取締役（写真右から2番目）は「日本一の紙のまちPRに貢献する書道部の活動に役立ててほしい」と同部の活躍の広がり期待を寄せました。



努力を重ね、つかんだ「夢」全国の舞台に挑戦！それぞれが輝いた夏



- 8月6日、全国小学生テニス選手権大会女子シングルスで川之江小学校6年の篠原絢さんが優勝。「世界で戦える選手になりたい」と、これからも上を目指したい」と更なる高みを見据え話しました。
- 7月20日、インターハイに出場する川之江高校空手道部3年の角川天音さんが、篠原市長を表敬訪問。「半年間、テコンドーを習い磨いた得意の上段蹴りで勝利を目指す」と、意気込みを伝えました。
- 7月25日、インターハイに出場する今治精華高校バレー部2年の古堅美衣奈さん（三島東中出身）が、篠原市長を表敬訪問。「アタッカーとして勢いをつけたい」と、初戦の突破に意欲をみせました。
- 8月7日、全日本中学生女子軟式野球大会に出場するマドンナジュニア愛媛所属の、寺尾咲嬉さん（土居中2年・写真右）と大垣結奈さん（三島東中2年・写真左）が表敬訪問。抱負を話しました。
- 8月7日、全国中学校柔道大会への出場を決めた市内4中学校の柔道部7人が表敬訪問。「練習の成果を発揮して優勝を目指す」と大舞台へ気持ちを奮い立たせました。
- 8月7日、全国大会に出場する川之江南中学校の生徒が表敬訪問。陸上4×100mリレーの陸上競技部5人と、水泳100m自由形の久保翔太郎さん（3年・写真左）が出場を報告しました。

市長のひとりごと



四国中央市長 篠原 実

今日は、台風と台風の間の真夏日がよみがえっています。雨が結構降った関係で案外すっきりとした天気です。この夏は若者のおかげで、21年ぶりに甲子園で野球の応援に参加できました。この間、多くの人に大変お世話になり、心より感謝いたします。今年も予選も一試合も球場に出て行かず、テレビ観戦でした。まさか、毎年応援しながら、70歳を超えて、その機会が来ようとは!? 球場に着いて、手を合わせ、亡くなられた先輩諸氏にありがとうと黙とうでありました。

つらいことも、悲しいことも、
うつむかず顔を上げて、前をしっかりと見て頑張るぞ！



市役所6階でみなと祭花火大会を観覧する障がい者支援施設のみなさん